

2012年12月8日

北海道学生研究会 SCAN

# 地域社会に対する 学生の積極的な貢献に関する研究

北見工業大学 マネジメント工学コース

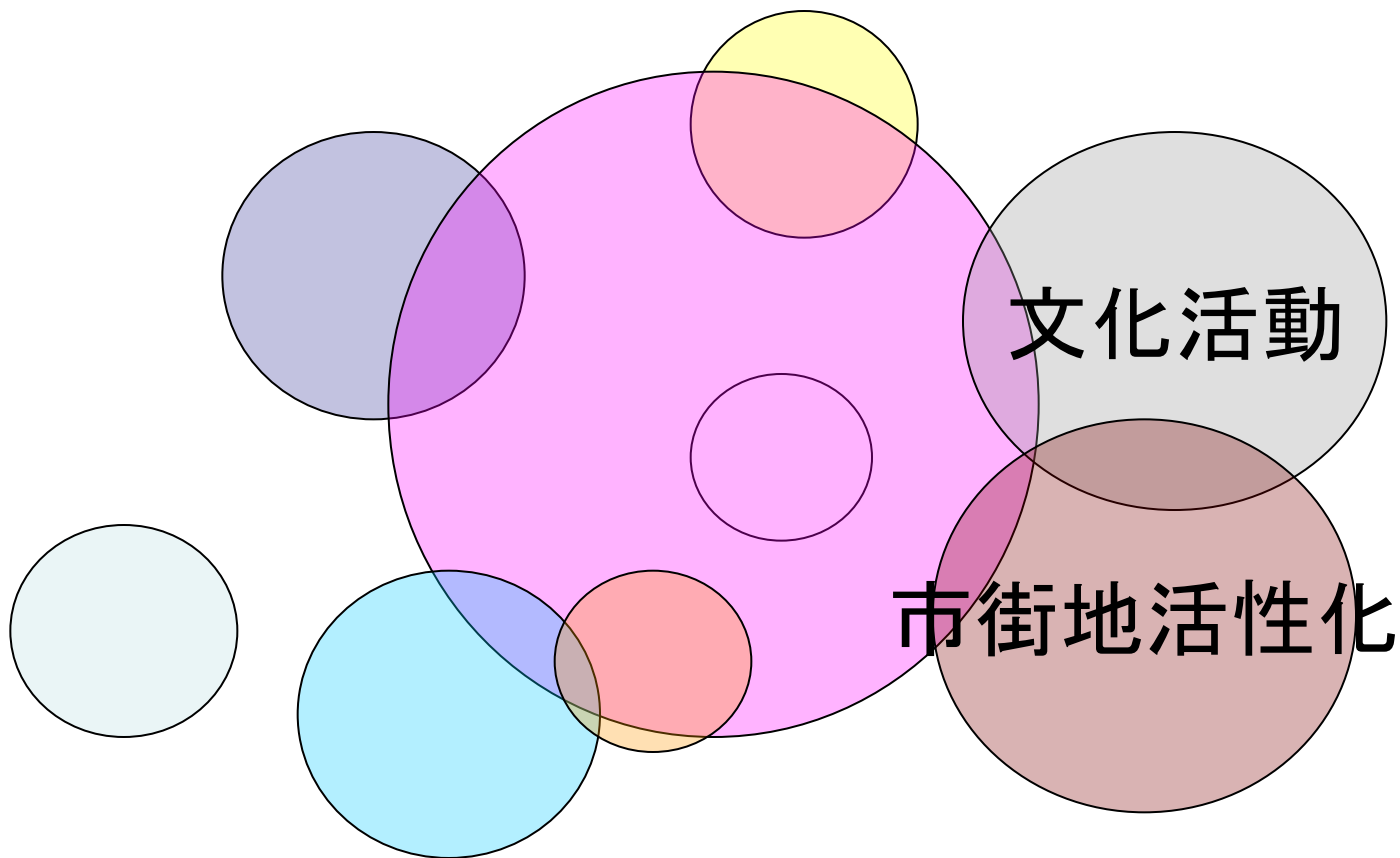
産学官連携価値創造研究室

○船津直樹      荒尾健太      松橋渉

# はじめに 共通テーマの領域図

地域の諸活動

学生が関わる諸活動



# 目次

- 1.背景
- 2.目的・目標
- 3.研究方法
- 4.結果
- 5.考察
- 6.まとめ
- 7.今後

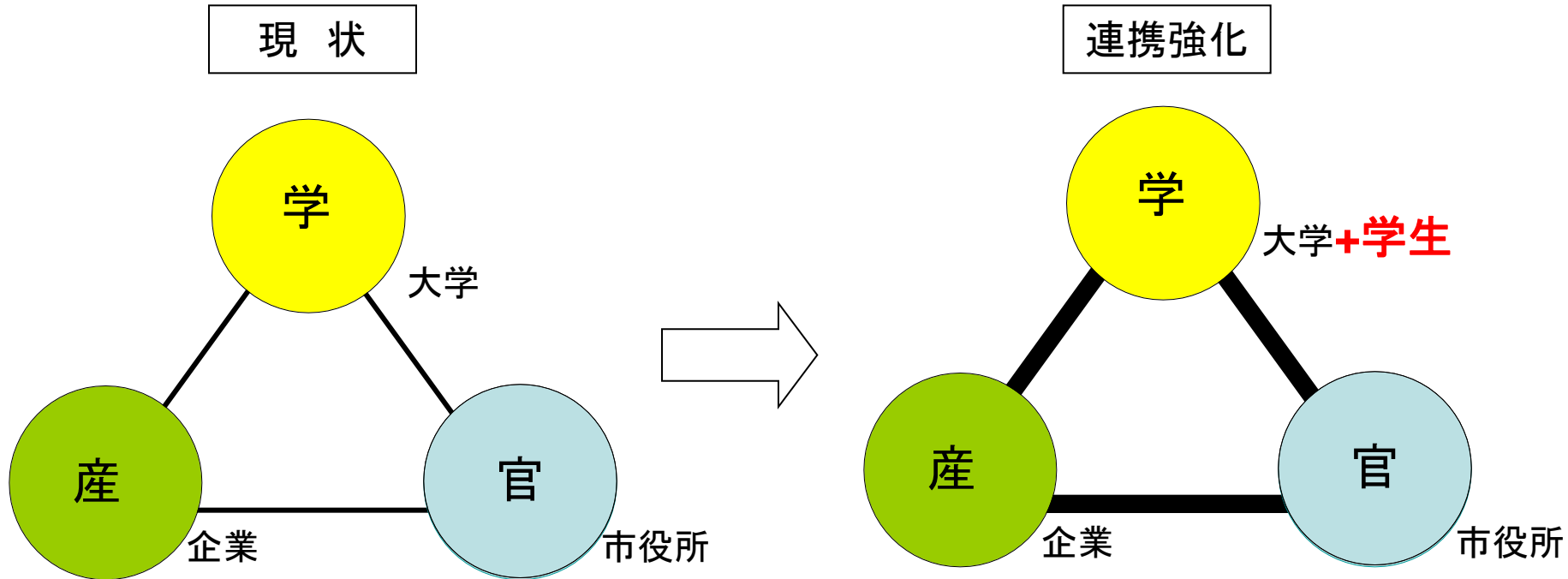
# 1.背景-1

近年、地域活性化を目標とした諸活動への「学生」の参画が期待されている。

また学生も、地域での、社会貢献を目指す活動に参画する意欲を持つ。

しかし、注目を集める学生の活動も単発的であつたり、世代を重ねるに連れて活動が衰退したりする例もある。

# 1.背景-2



産学官連携において、「学」は一般的には大学としてとらえられている。

しかし、「学」を、より「学生」を強く意識して捉えることが必要と考える。

同様に、学生も「学」の立場であることを意識して活動することにより、産学官連携の結びつきがより強化されると考えられる。

## 2.目的

### 上位目的

大学をもつ日本の各都市で  
学生の積極的な活動を行う環境が整い、  
日本全体の活性化が進むこと。

### 目的

学生が積極的に活動へ加わり、  
北見の活性化がさらに進むこと。

## 2.目標

### 目標

学生の社会貢献に対する動機と環境を明らかにする。  
学生の活動を継続的にする。

学生の活動に対する動機

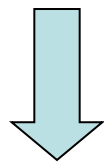
北見地域における  
学生が社会貢献している環境

アンケート・ヒアリング

学生に必要な環境

# 3.研究方法

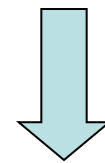
研究方法①  
アンケート調査



アンケート対象

- ・学生
- ・北見市民

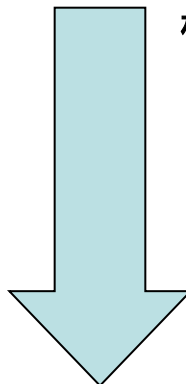
研究方法②  
ヒアリング調査



ヒアリング対象

- ・学生
- ・北見市民

考察



検討・把握項目

- ・学生の活動に対する目的
- ・学生の社会貢献度
- ・学生と市民の関わり
- ・市民が学生に求めるもの
- ・北見地域に求めるもの

研究方法③  
ケーススタディ



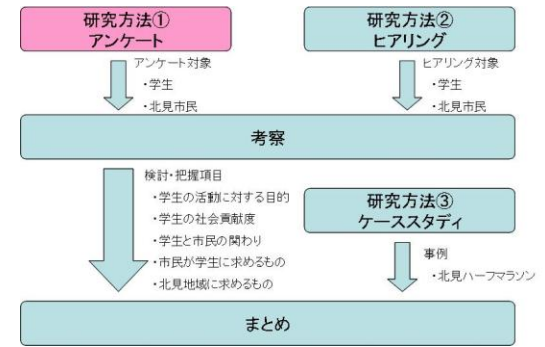
事例

- ・北見ハーフマラソン

まとめ



# 3.研究方法①



## アンケート I

対象; 学生(北見工業大学・日本赤十字北海道看護大学)

期間; 11月～12月

場所; 学食、研究室、授業

## アンケート II

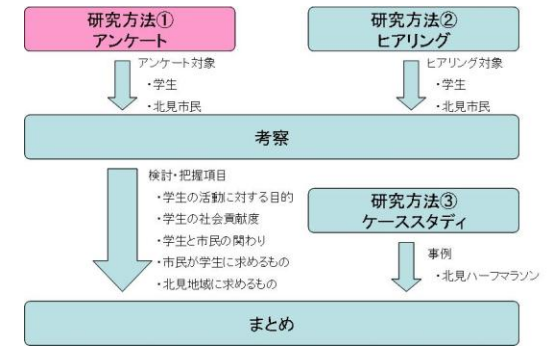
対象; 北見市民

期間; 12月中旬～1月中旬予定

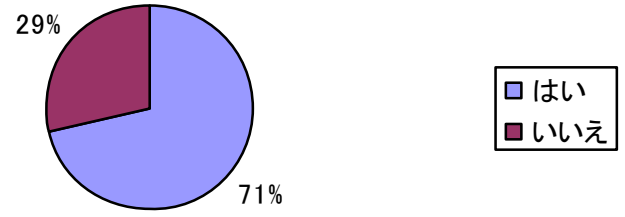
場所; 北見駅前、商店街、Parabo、イオン

# 4.結果-1

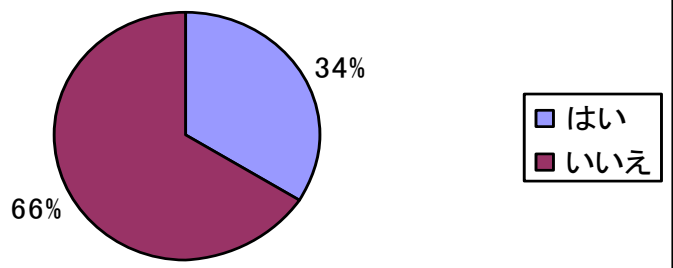
## アンケートⅠ



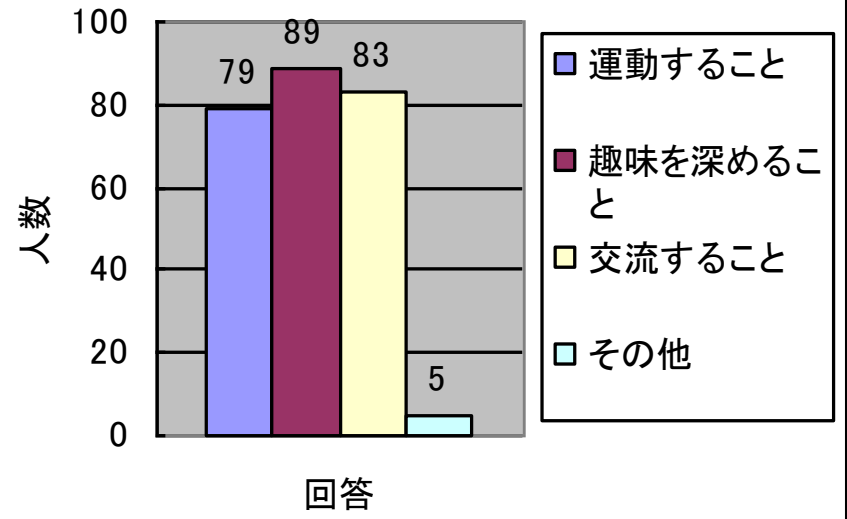
問1 あなたは現在部活動・サークル活動に参加していますか？



問3 あなたは現在アルバイトをしていますか？

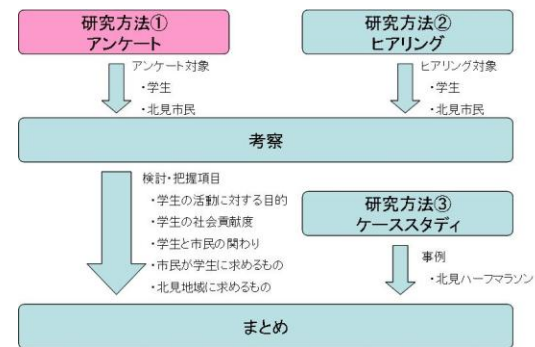


問2 部活動・サークル活動をする上で求めるものを教えてください。

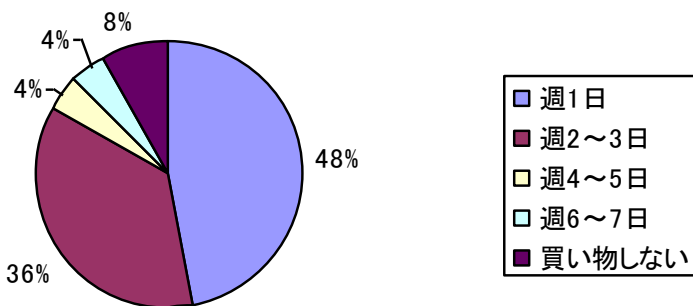


# 4.結果-2

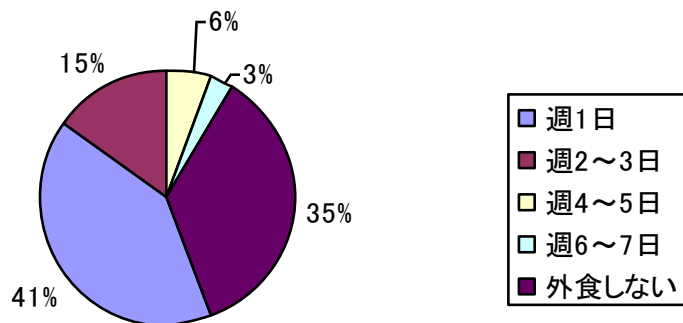
## アンケート I



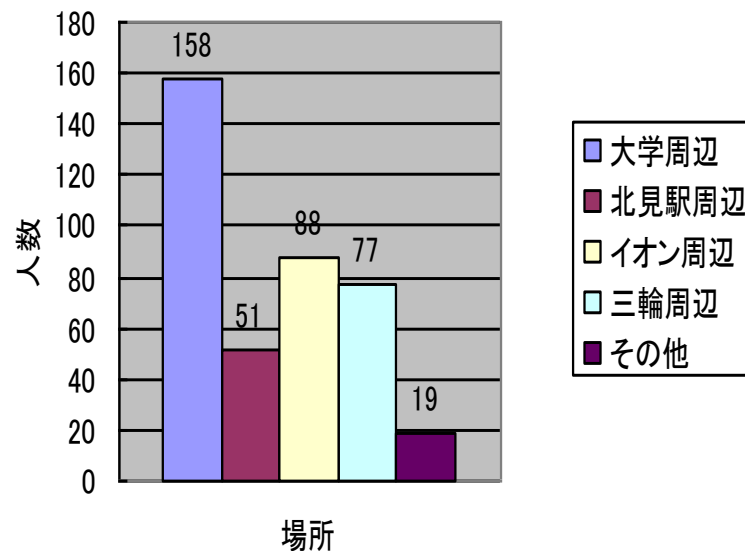
問4 あなたの買い物の頻度はどれくらいですか？



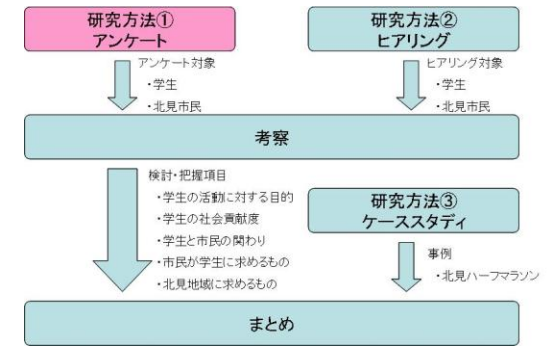
問5 あなたの外食の頻度はどれくらいですか？



問6 あなたが買い物や外食をする場所を教えてください。

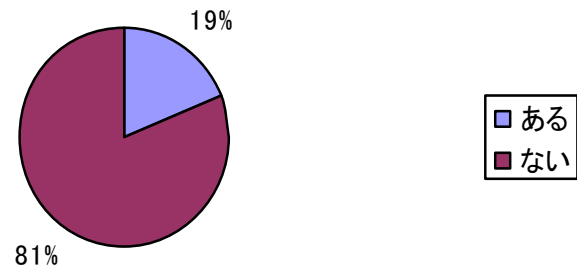


# 4.結果-3

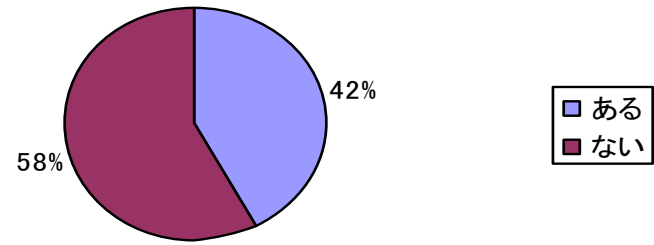


## アンケート I

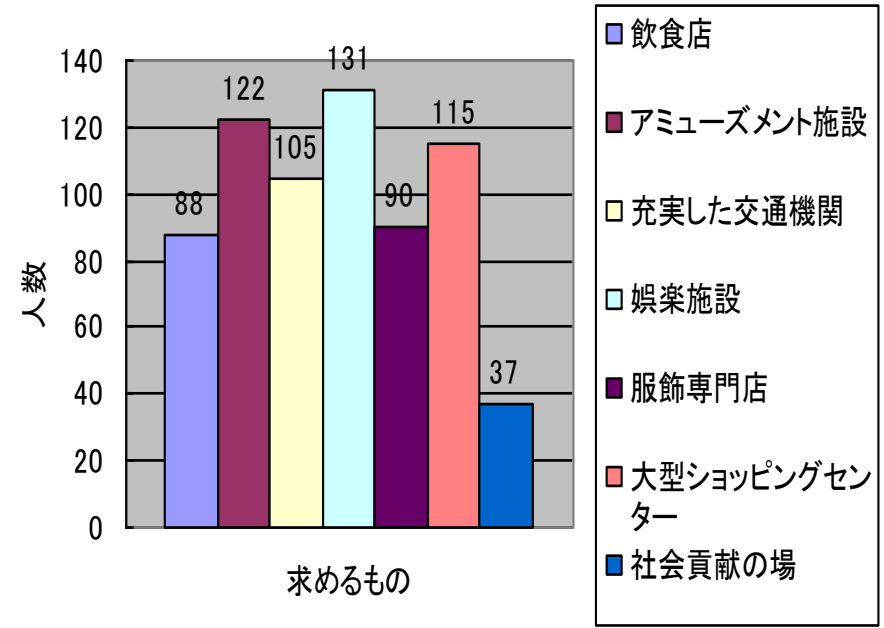
問7 あなたは北見のイベントに参加したことはありますか？



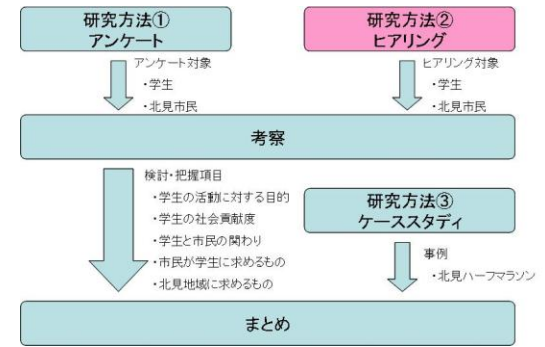
問8 あなたは北見市民と関わったことはありますか？



問9 あなたが北見に求めるものは何ですか？



# 3.研究方法②



## ヒアリング I

対象;サークル等をリードする立場にある学生

(北見工業大学・日本赤十字北海道看護大学)

期間;11月～12月

場所;学食、研究室、部室

## ヒアリング II

対象;北見の活性化を目的とする活動を行う人

期間;11月～12月

場所;商工会議所、市役所、中小企業同友会

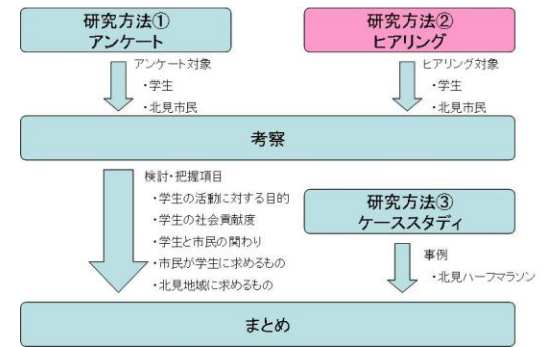
# 3.研究方法②

## ヒアリングⅠ 質問項目(対象:学生)

- ・どのように部長になりましたか？
- ・活動の目的は何ですか？
- ・部長になってからの取り組みは？
- ・社会と関わりたいですか？

## ヒアリングⅡ 質問項目(対象:北見市民)

- ・あなたの活動に学生は必要ですか？
- ・学生の参加を求める活動を行いましたか？
- ・その活動は成功といえますか？
- ・学生を集めるためには、どうすればよいと思いますか？



# 4.結果-4

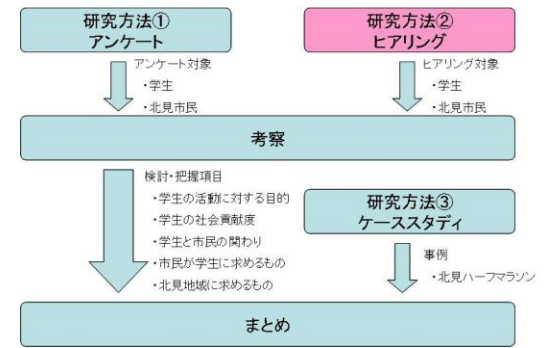
## ヒアリング I (対象:学生)

- ・部の人数が多いのでまとめるのが大変。
- ・部の活動は代々行なってきたことを続けているだけ。
- ・社会に関わる活動も行なってみたいと思う。

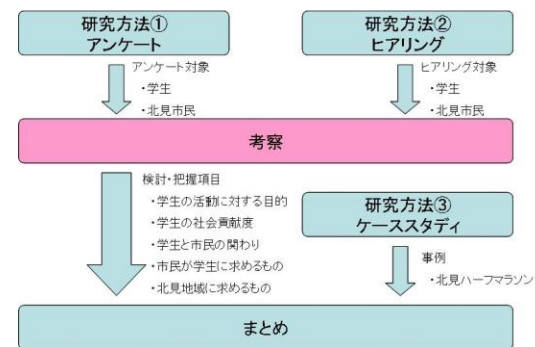
しかし、どのように行なえばいいのかよくわかっていない。

## ヒアリング II (対象:北見市民)

- ・学生の視点からの行動と貴重な意見が得られるため、学生と活動をしてみたい。
- ・学生を集めるための行動はしたが、あまり集まらなかった。
- ・今後学生と活動したいが、どのように集めるのか分からない。



# 5. 考察

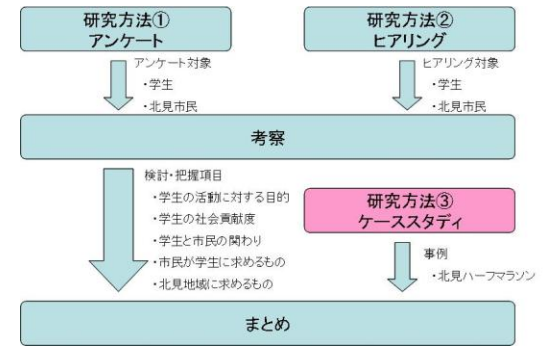


- 学内活動はしているが、学外活動をしている学生は少なかった。
- 買い物、外食を最低でも週一回する学生がほとんどで、地域にもたらす経済効果は大きい。
- 学生の地域に対して求めているものは多く存在するが、学生と地域は関わっていない。
- 地域も学生も互いに関わりを持ちたいという意見を持っている。
- 関わる方法や機会が明らかになっていない。



# 3.研究方法③

## ケーススタディ



開催当初	現在
全体 1243人	全体 1899人
ボランティア 180人	ボランティア 334人

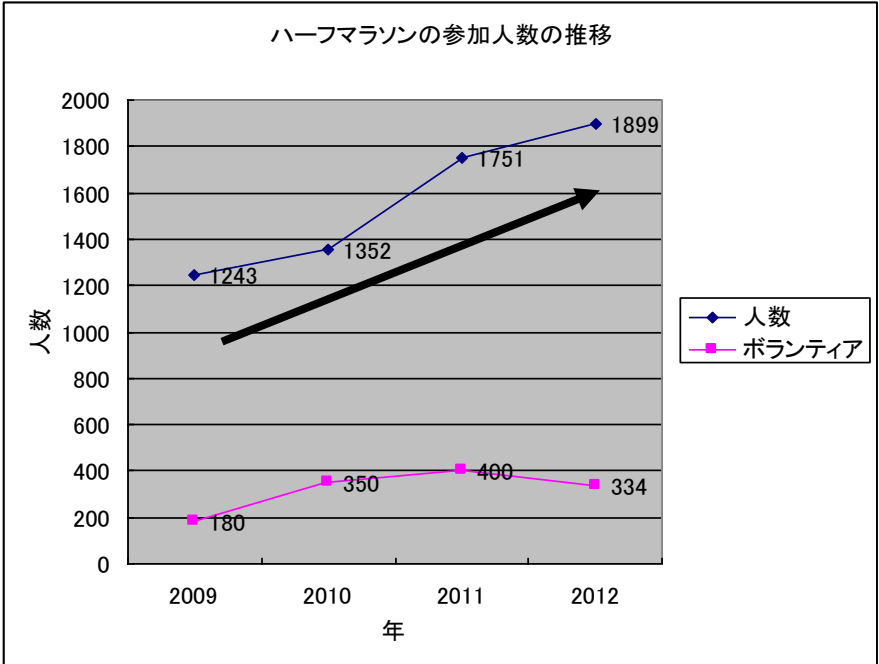
**第4回 北見ハーフマラソン大会**

開催日 **2012 10.7日**

コース: 10km, 5km

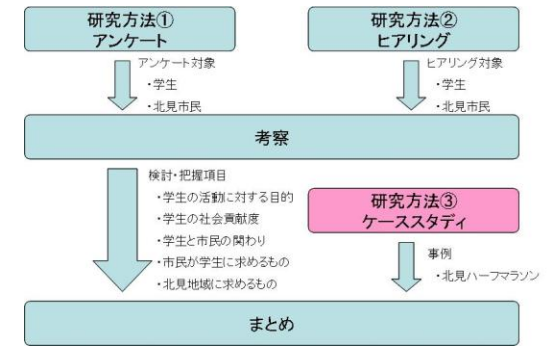
会場: 北見市香りやんせ公園

お問い合わせ/北見ハーフマラソン実行委員会事務局  
TEL (0157) 23-6113



# 3.研究方法③

## 学生参加を求めて



- 「競技」から「エンターテインメント」へ

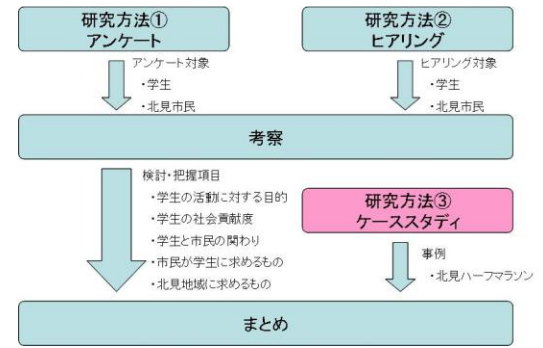
ただ、記録を目指す大会ではなく、  
「楽しめるマラソン」を目指した

- 一人での参加から家族参加まで

「家族に見に来てもらうため」の会場づくり

# 3.研究方法③

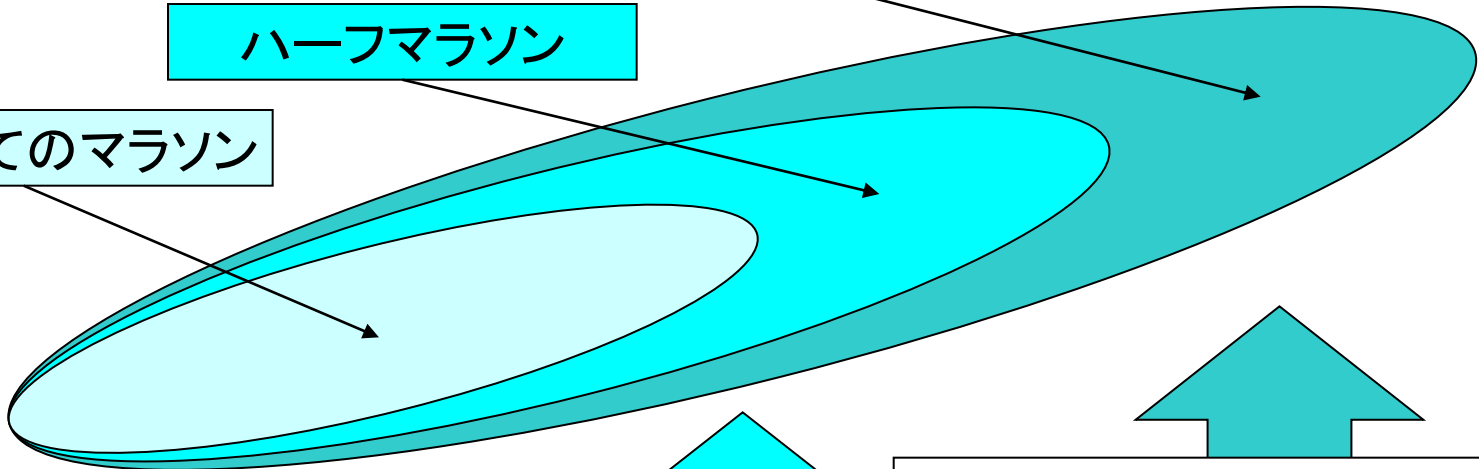
## 領域のシフト



家族で参加するハーフマラソン

ハーフマラソン

競技としてのマラソン



家族で走ることを楽しむランナー

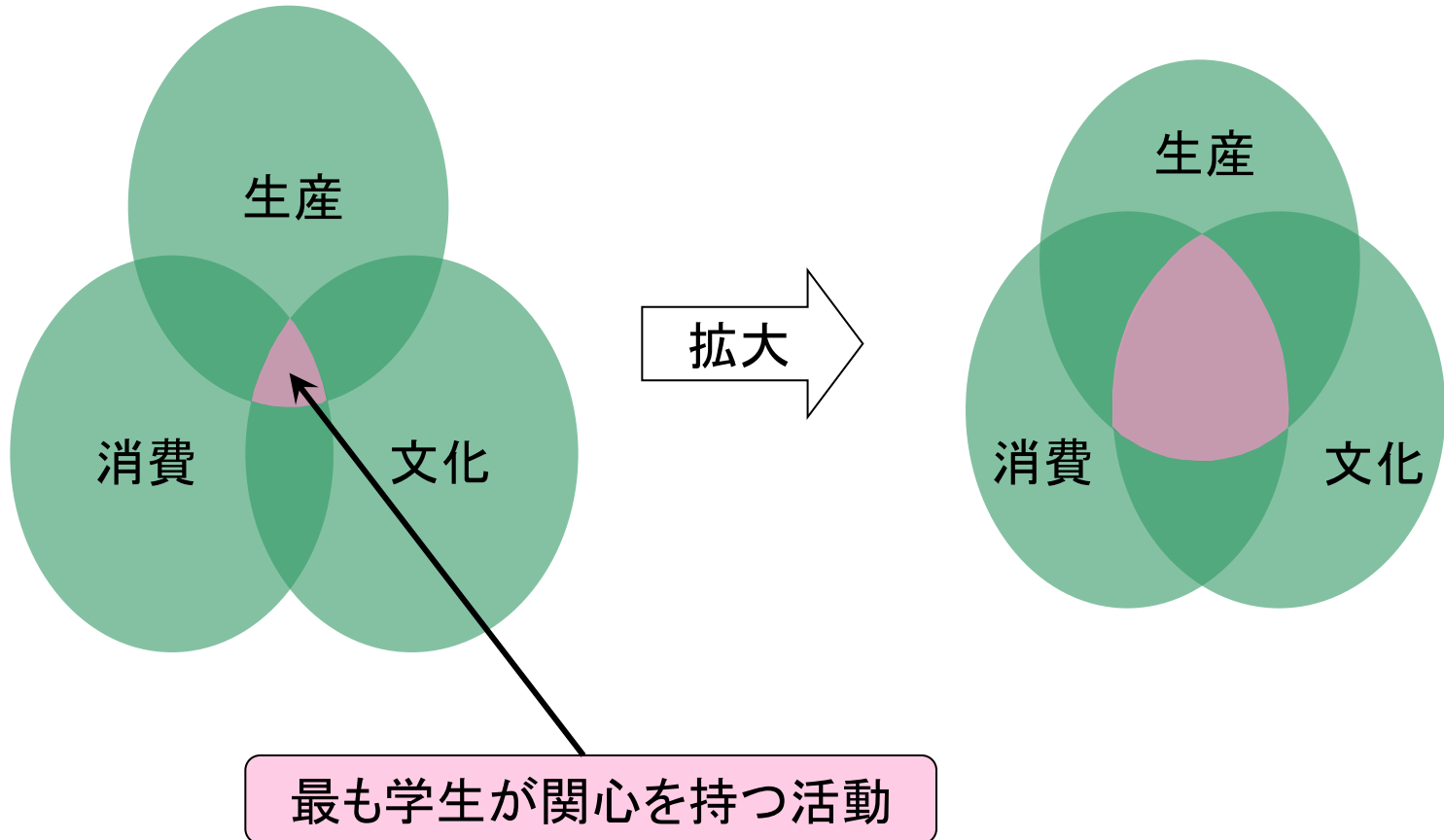
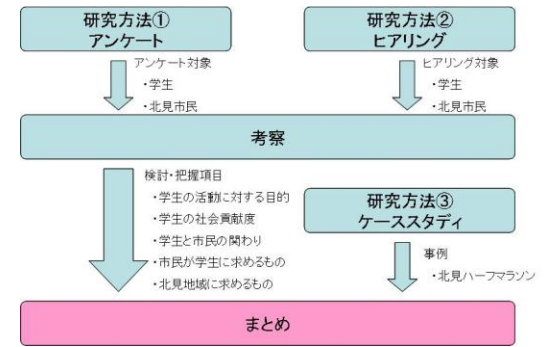
走ることを楽しむランナー

記録を目指すランナー

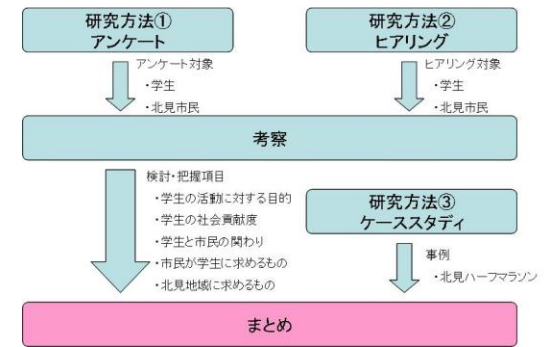


領域のシフト

# 6.まとめ-1



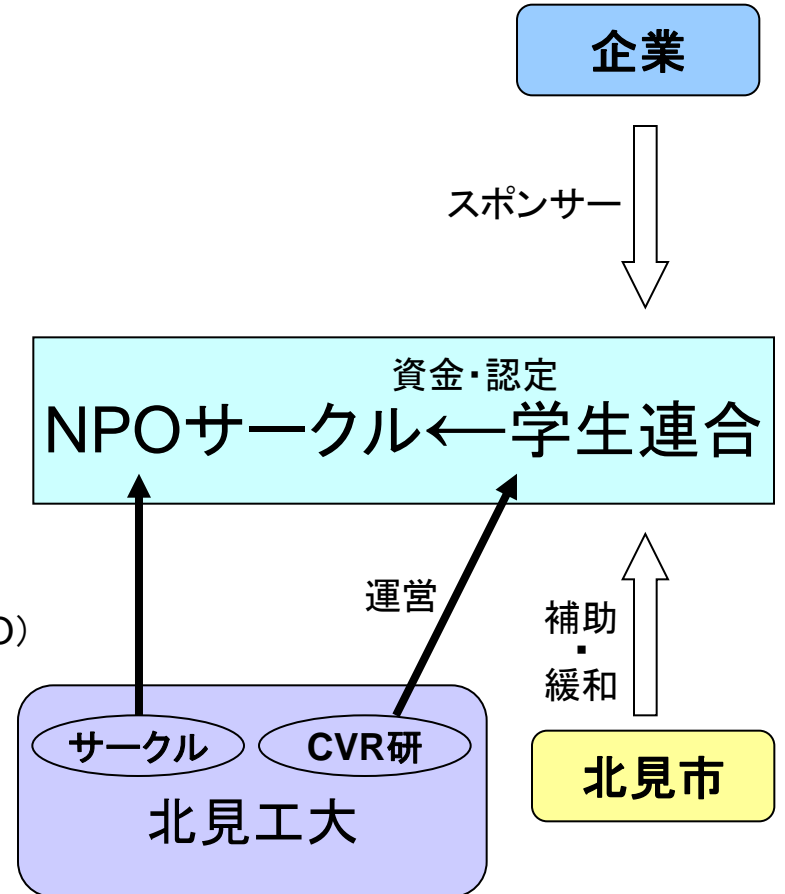
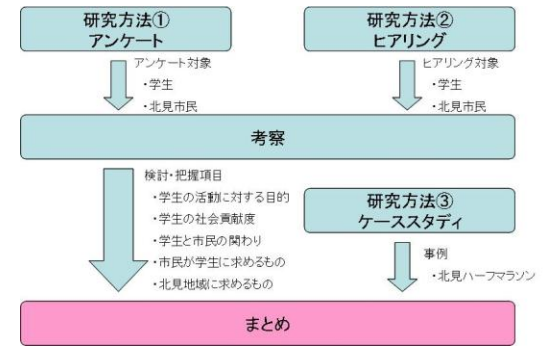
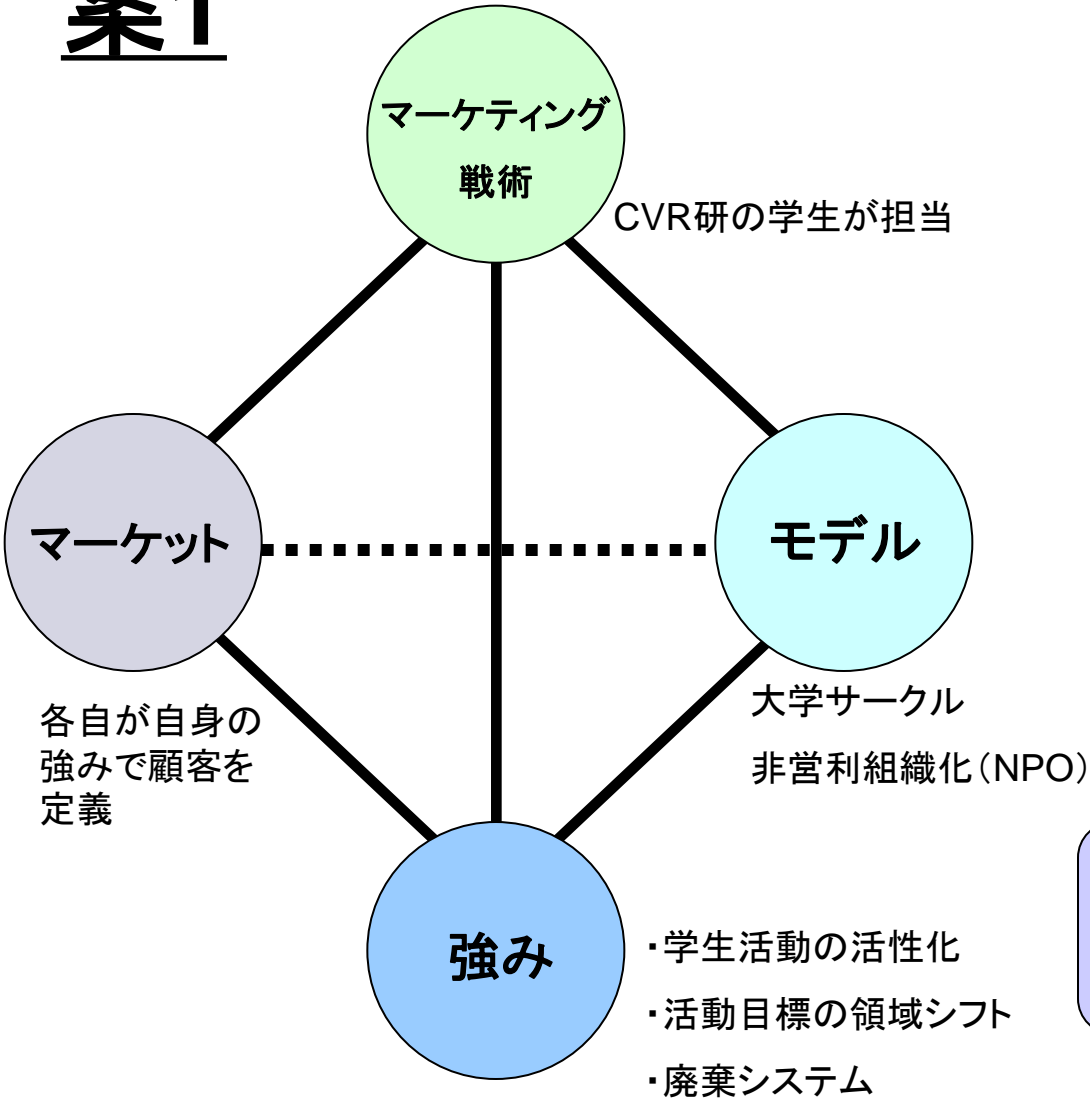
## 6.まとめ-2



- 学生は幅広い興味関心を持っていることがわかった。そして、その中には社会貢献も含まれている。
- 学生側は活動をマネジメントすることに苦労していることがわかった。
- 学生を求める側は取組みを行っているが望む成果を得られていない。
- 上記を満たすシステムが存在した時には、両者の活動は進むと考えられる。

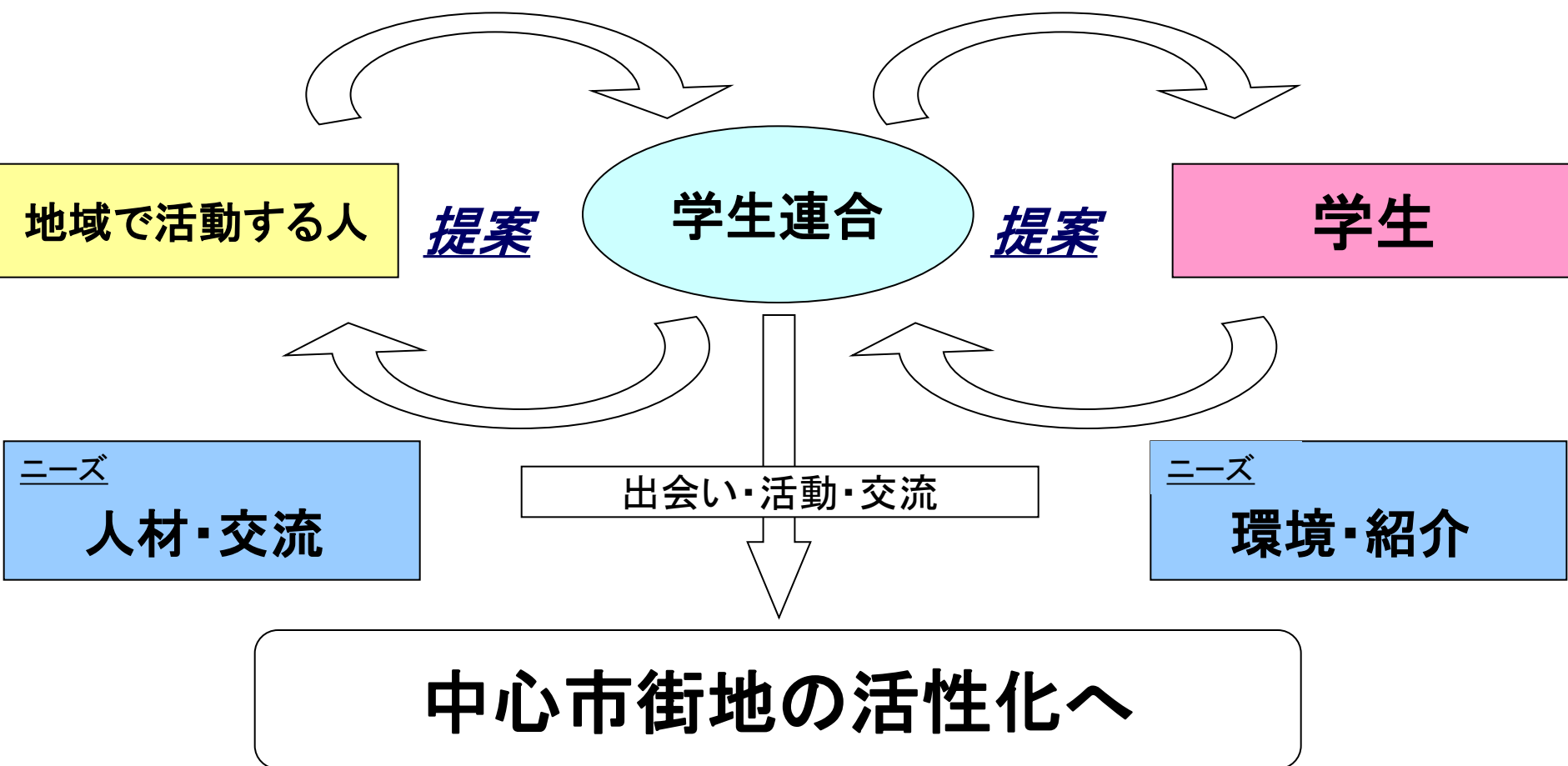
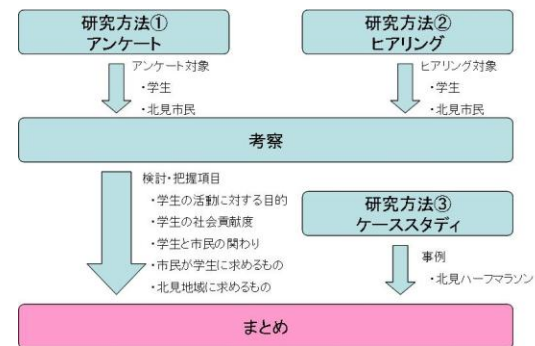
# 6.まとめ-3

## 案1



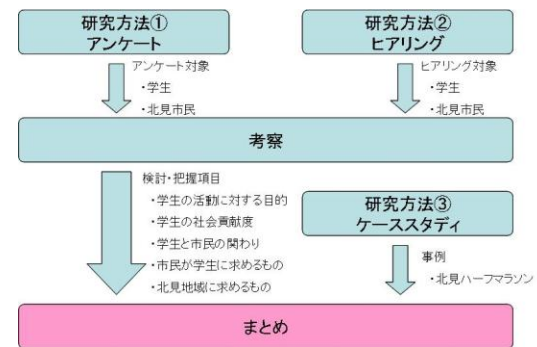
# 6.まとめ-4

## 案2

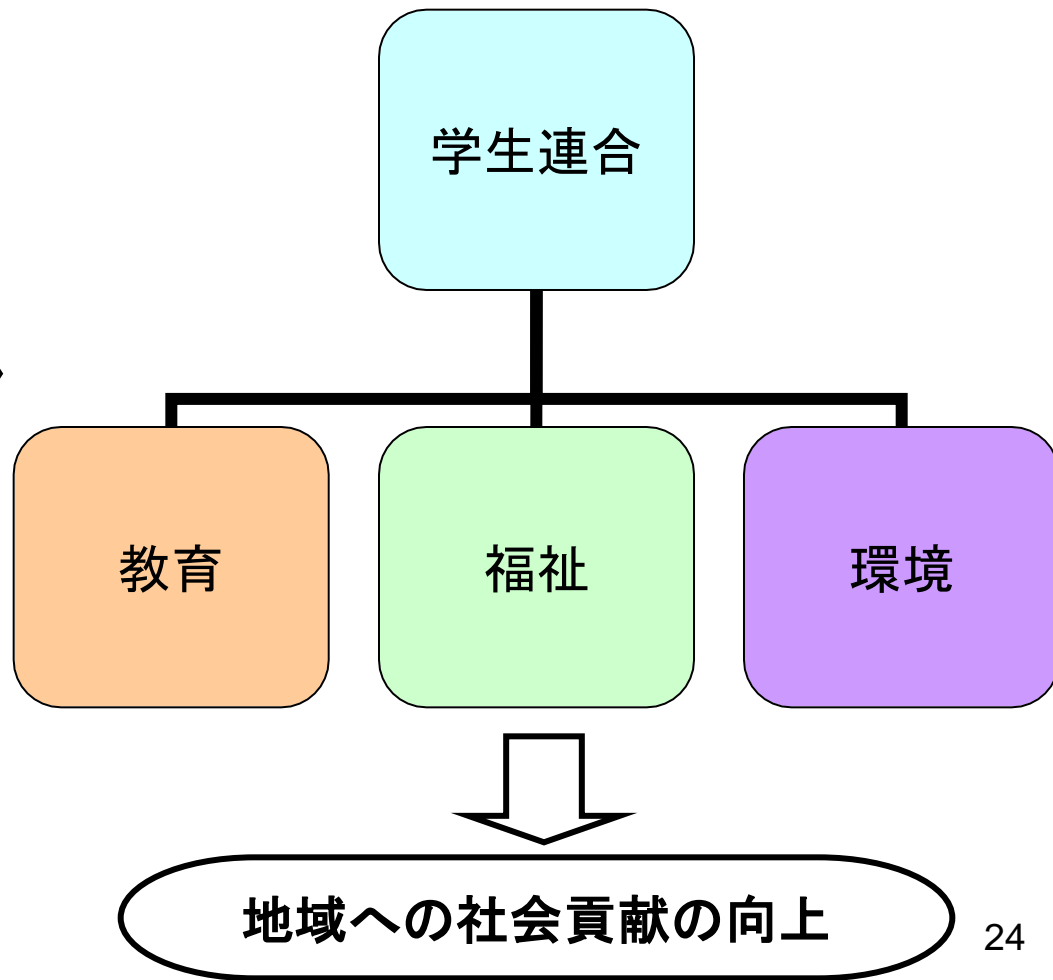
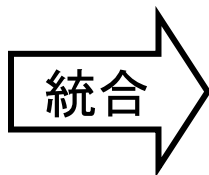
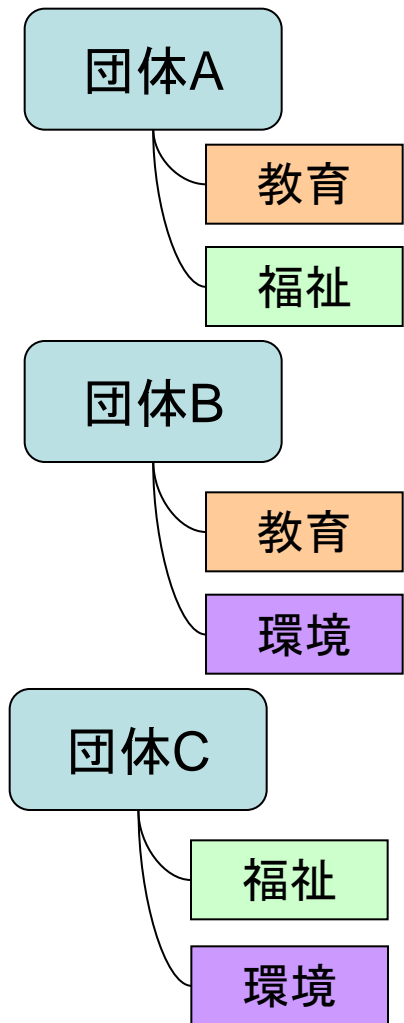


# 案3

## まとめ - 5

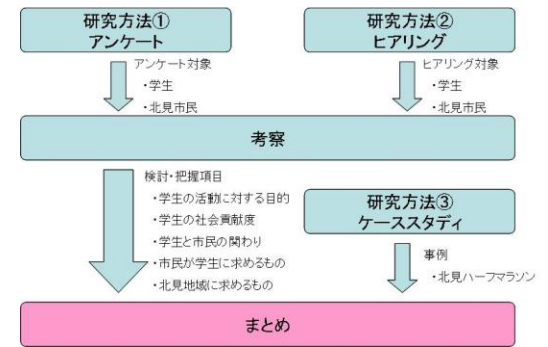


### 北見工大の現状





# 7. 今後



- アンケート・ヒアリングをさらに実施し、学生と地域の求めているものをより明らかにする。
- 学生と地域がより関係を深めるようなシステムを考察していく。
- 学生の活動が継続的になり、衰退していかないような取り組みを考察する。

ご清聴ありがとうございました。